

平成 19 年度

都立高入試の概況

平成 19 年 3 月

新教育研究協会

平成 19 年度 都立高入試の概況

1. 募集人員

① 就学計画

東京都では、平成 18 年度（平成 19 年 3 月卒業）の公立中学校卒業予定者数 73,122 人に対し、計画進学率を例年通り **96.0%**、都立高校と私立高校の受け入れ比率をこれも例年通り **59.6 : 40.4**として次の就学計画を立てました。

これにより、都立高校の受け入れ枠は前年度より 400 人多い 40,000 人になりました。

平成 18 年度就学計画

	19 年度	18 年度	17 年度	16 年度	15 年度
卒業予定者 A	73,122	72,435	73,526	77,361	78,263
計画進学率 B	96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
進学者 C=(A*B)	70,200	69,600	70,600	74,300	75,200
国立・他県進学者 D	3,000	3,000	3,100	3,300	3,400
都内公私受け入れ分 E=(C-D)	67,200	66,600	67,500	71,000	71,800
都内私立受け入れ分 F	27,200	27,000	27,300	28,700	29,100
都立高校受け入れ分 G=(E-F)	40,000	39,600	40,200	42,300	42,700

この 40,000 人に他県・国立中からの入学予定者を加え、転勤枠や高専の入学者枠を除くと、平成 19 年度の全日制一般募集の募集人員(推薦入学含む)は前年度より 240 人多い **40,182 人**になります。

全日制募集概要

科名	学校数	学級数	募集人員				計
			一般募集	転勤者枠	転学者枠	9月入学	
普通科	129	790	31,165	165	244	6	31,580
農業科	5	18	630				630
工業科	18	93	3,255				3,255
商業科	11	61	2,135				2,135
家庭科	4	8	280				280
福祉科	1	1	35				35
芸術科	1	2	80				80
体育科	2	3	120				120
国際科	2	8	305			15	320
併合科	3	3	105				105
産業科	2	12	420				420
総合学科	7	42	1,652	14	14		1,680
全日制計	185	1,041	40,182	179	258	21	40,640

<注>学校数は併設校を含めた延べ学校数

しかし、この計画にもかかわらず、実際には下表のように都立高校は入学者超過、私立高校は未充足の状況が長く続いています。

高等学校就学計画と実績

区分			18年度	17年度	16年度	15年度	14年度
公立中学校卒業生(人)	計画		72,435	73,526	77,361	78,263	79,491
	実績		72,527	73,588	77,451	78,386	79,556
進学率(%)	計画		96.0	96.0	96.0	96.0	96.0
	実績		92.51	92.22	92.28	92.79	91.93
進学者(人)	計画		69,600	70,600	74,300	75,200	76,400
	実績		67,092	67,866	71,474	72,733	73,135
内訳	都立高校(人)	計画	39,600	40,200	42,300	42,700	43,400
		実績	40,610	41,212	43,378	43,869	44,568
		実績率	102.6	102.5	102.5	102.7	102.7
	都内私立高校(人)	計画	27,000	27,300	28,700	29,100	29,500
		実績	23,593	23,664	25,002	25,544	25,123
		実績率	87.4	86.7	87.1	87.8	85.2
	公立比率	計画	59.6	59.6	59.6	59.6	59.6
		実績	63.3	63.5	63.4	63.2	64.0
	国立他県高校(人)	計画	3,000	3,100	3,300	3,400	3,500
		実績	2,889	2,990	3,094	3,320	3,444
		実績率	96.3	96.5	93.8	97.6	98.4

② 新設校・募集停止校・学級減

(1) 19年度新設校・改編

都立高校改革推進計画により、今年度は全日制・定時制を含めて8校が開校しました。

学校名	学科	学級数(募集数)	備考
板橋有徳	普通科	6 (240)	全日制単位制
橘	産業科	6 (210)	全日制、定時制併設 (左記の学級数は全日制のもの)
八王子桑志	産業科	6 (210)	全日制
葛飾総合	総合学科	6 (240)	全日制単位制
東久留米総合	総合学科	6 (240)	全日制、定時制併設 (左記の学級数は全日制のもの)
荻窪	普通科	8 (240)	昼夜間定時制単位制
八王子拓真	普通科	10 (300)	昼夜間定時制単位制
稔ヶ丘	総合学科	(210)	昼夜間定時制単位制総合学科

(2) 募集停止校

一方、同じく都立高校改革推進計画により全日制では次の5校が募集停止となりました。

学校名	学科	学級数	備考
九段	普通科	7	千代田区立中等教育学校に改編
忠生	普通科	4	22年度 町田地区総合学科へ統合
王子工業	工業科	5	23年度 北地区総合学科へ統合
赤坂	商業科	4	21年度 大田地区商業高校に統合
市ヶ谷商業	商業科	4	21年度 大田地区商業高校に統合
合計 5校 24学級			

(3) 学級増と学級減

都立高校推進計画と規模適正化により、次の2高校が学級増または学級減となりました。

学校名	学科	学級数(18→19)	備考
東大和	普通科	6→7	規模適正化
蒲田	普通科	6→5	規模適正化 (エンカレッジスクール指定)
合計 2校			

③ 連携型中高一貫校の特別枠

19年度より連携型中高一貫教育を行っている下記の高校では募集人員に特別枠を設け、連携する中学校から募集を行います。

学校名	学科	男	女	計	連携している中学校
広尾	普通科	9人	9人	18人	渋谷区広尾中学校
永山	普通科	8人	8人	16人	多摩市諏訪、貝取、多摩永山中学校
蔵前工業	工業科	男女問わない		5人	台東区浅草中学校
芝商業	商業科	男女問わない		21人	北区十条、飛鳥中学校
合計 4校				60人	

2. 校長会志望予定調査

平成18年12月15日（金）時点での「都立高校全日制志望予定（第1志望）調査」によると、全日制都立高校を第1志望とした人の割合は**73.60%**、前年度（74.54%）より若干下がったものの高い水準を維持しました。

志望予定調査の志望率の推移

年度	男女	卒業予定者数 A(人)	全日制高校						Bのうち都立高校				
			全日制高校志望予定者数			全日制進学志願率			都立高志望者数		都立高志望率		
			B		C Bの内学校名未定者	B/A		D		D/(B-C)			
19	男	38,292	72,960	35,579	67,782	683	1,222	92.91	92.90	24,871	48,989	71.27	73.60
	女	34,668		32,203	(69,837)	539		92.89	(95.72)	24,118	50,885	76.17	(74.16)
18	男	37,829	72,654	35,440	68,079	912	1,636	93.68	93.70	24,803	49,525	71.83	74.54
	女	34,825		32,639	(69,649)	724		93.72	(95.86)	24,722	(50,923)	77.46	(74.87)
17	男	38,463	73,536	36,125	69,107	1,387	2,606	93.92	93.98	24,238	48,542	69.77	72.99
	女	35,073		32,982	(70,521)	1,219		94.04	(95.90)	24,304	(49,776)	76.52	(73.29)
16	男	40,537	77,406	38,347	73,371	1,258	2,297	94.60	94.79	25,941	51,845	69.94	72.95
	女	36,869		35,024	(74,378)	1,039		95.00	(96.09)	25,904	(52,718)	76.22	(73.14)
15	男	41,267	78,313	39,101	74,313	935	1,638	94.75	94.89	26,865	53,521	70.39	73.64
	女	37,046		35,212	(75,021)	703		95.05	(95.80)	26,656	(54,113)	77.24	(73.74)

<注>B欄には高等専門学校志望者も含む

平成15～19年度の()は昼夜間定時制高校・通信制高校で、全日制と同様な時間帯で履修を志望している生徒を含む数値

学科別志望倍率の推移を見ると次の表のようになります。

志望予定調査の学科別志望者数の推移

学科等	事項	募集人員	志望者数	倍率	志望調査倍率				
					18年度	17年度	16年度	15年度	14年度
普通科	男	14,196	18,177	1.28	1.29	1.18	1.22	1.26	1.22
	女	12,892	17,349	1.35	1.37	1.30	1.35	1.39	1.33
	コース	559	469	0.84	1.10	1.12	1.03	1.09	1.03
農業科		630	757	1.20	1.22	1.24	1.25	1.25	1.31
工業科		2,784	2,834	1.02	1.05	1.15	1.09	1.01	1.09
科学技術		210	208	0.99	1.04	1.00	0.97	1.04	0.57
商業科		1,894	1,843	0.97	1.01	1.13	1.10	0.95	0.96
ビジネスコミュニケーション		210	229	1.09	1.04	0.61	0.66	-	-
家庭科		210	230	1.10	1.07	1.17	1.11	1.24	1.32
福祉科		35	40	1.14	1.34	-	-	-	-
芸術科	音楽	40	36	0.90	1.15	1.03	1.08	0.75	0.95
	美術	40	45	1.13	1.90	1.13	1.18	1.63	1.55
体育科		112	145	1.29	1.01	2.55	2.53	3.30	2.75
国際学科	一般	240	359	1.50	1.46	1.72	1.93	1.99	1.23
	海外帰国	40	43	1.08	1.43	1.09	1.16	1.42	1.09
	在京外国	25	35	1.40	0.92	1.50	1.50	1.65	1.55
併合科		105	28	0.27	0.20	0.10	0.14	0.13	0.24
産業科		420	578	1.38	-	-	-	-	-
単位制普通科		2,756	3,234	1.17	1.19	1.18	1.21	1.18	1.16
単位制工業科		175	174	0.99	0.82	0.77	0.59	-	-
単位制家庭科		70	75	1.07	1.49	-	-	-	-
単位制総合学科		1,652	1,835	1.11	1.27	1.29	1.27	1.34	1.17
合計		39,295	48,723	1.24	1.26	1.21	1.23	1.25	1.21
海外帰国	普通科	114	28	0.25	0.21	0.25	0.46	0.33	0.34
	工業科	10	1	0.10	0.40	0.70	0.00	0.30	0.30
	商業科	10	2	0.20	0.00	0.10	0.70	0.10	0.10
高等専門学校		320	285	0.89	1.23	1.06	1.11	1.15	1.25

普通科男女、コース制、農業科、工業科、商業科、単位制普通科などいずれも前年度より倍率が若干下がっています。しかし、下がったとはいえ普通科男子は0.01ポイントの微減、女子も0.02ポイントの減に過ぎず、この時点では今年度の都立高入試は、前年度の高倍率の反動でやや倍率が下がるものの、全体的には厳しい入試が続くであろうと予想されました。

むしろ、この調査で注目されたのが各学力層の動きです。下の表は、コース制除く普通科の志望状況を学力別にまとめたものです。これを見ると、男子の場合は上位層（A）が次の学力層（B）に移動していること、なおかつ中堅下位（C）がその下の学力層（D）に移動していることがわかります。女子は、中堅下位層（C、D）が抜け、上位層（A）と中堅上位層（B）がさらに増加しています。このことから、男子の学力上位校（A）の入試はやや緩和するものの、女子の上位層（A、B）は前年度以上の厳しい入試になると予想できます。

男子 学力レベル	19年度			18年度			17年度		
	定員	志願者	倍率	定員	志願者	倍率	定員	志願者	倍率
SS58以上 (A)	3,425	5,311	1.55	3,404	5,663	1.66	3,563	5,064	1.42
SS51～57 (B)	3,963	5,181	1.31	3,936	4,844	1.23	4,086	4,731	1.16
SS45～50 (C)	4,181	4,430	1.06	4,014	4,515	1.12	4,095	4,469	1.09
SS44以下 (D)	3,905	4,471	1.14	4,004	4,423	1.10	4,172	4,396	1.05

女子 学力レベル	19年度			18年度			17年度		
	定員	志願者	倍率	定員	志願者	倍率	定員	志願者	倍率
SS58以上 (A)	3,102	4,911	1.58	3,123	4,878	1.56	3,244	4,559	1.41
SS51～57 (B)	3,594	5,158	1.44	3,621	4,860	1.34	3,711	4,715	1.27
SS45～50 (C)	3,788	4,935	1.30	3,684	5,065	1.37	3,711	5,055	1.36
SS44以下 (D)	3,546	4,173	1.18	3,693	4,711	1.28	3,791	4,833	1.27

<注>上記の表はコース制除く普通科の集計です。エンカレッジスクール、単位制普通科も含んでいます。

エンカレッジスクールの偏差値は、改編前のもので分類しました。単位制の定員は男女別募集校の男女比に準じて分けました。

新設校では、単位制普通科の板橋有徳が様子見の0.48倍、産業科の橘が0.82倍、昼夜間定時制の荻窪が0.83倍と定員割れとなったほか、総合学科の葛飾総合(1.14倍)、東久留米総合(1.07倍)もやや低めの倍率になった一方で、もう一つの産業科八王子桑志が1.93倍、昼夜間定時制の八王子拓真が3.96倍(一般枠)、チャレンジスクールの稔ヶ丘が1.48倍と高い人気を得、明暗を分けました。

3. 都立推薦入試「1月27日(土)」

① 文化・スポーツ等特別推薦

文化・スポーツ特別推薦は52校601人の定員で行われました。応募人員は1,116人で倍率は1.86倍、前年度の1.89倍とほぼ同様の応募状況となりました。

この特別推薦は、学校の特色を上手に生かした種目では高倍率になっており、国際理解教育に力を入れている**三田の英語**(7.00倍)、昨年夏の東東京大会でベスト16に進出した**城東の野球**(6.50倍)、久留米の伝統を生かした新設校、**東久留米総合のサッカー**(11.00倍)などです。また、東京都の運動部活動推進重点校の指定を受けている、**文京、高島、つばさ総合**の野球やサッカーなどの種目でも多くの志望者を集めました。

その一方で、応募者が一人もいなかった種目も12種目ありました。

この特別推薦では、応募者が一定のレベルに達していなければ定員内でも不合格にできることから、今春も定員より117人少ない**484人**が合格となりました。

② 一般推薦応募状況

- 応募倍率は3倍を割り低下傾向にあるが、高い倍率に変化はない。
- 男子は平準化、女子は格差拡大。

推薦入試の全日制募集人員10,335人に対し応募者数は30,812人、応募倍率は2.98倍(前年度3.05倍)となり、平成15年度から続いていた3倍台を初めて下回りました。

とはいえ高い倍率に変わりなく、旧学区に属する普通科高校の**男子は3.17倍**(前年度3.14倍)、**女子4.17倍**(同4.32倍)とそれぞれ高倍率を維持しています。もっとも高い倍率になったのは男子は**青山**の9.57倍、女子も**青山**で13.23倍でした。男子は次いで**東**(5.26倍)、**戸山**(4.97倍)、**足立西**(4.92倍)、**東大和**(4.90倍)となっており、女子は**駒場**(7.50倍)、**本所**(6.82倍)、**三田**(6.63倍)、**竹早**(6.19倍)の順でした。男子で応募倍率が4倍を超えたのは18校で前年度の23校より減っており、倍率が全体的にならされたようです。また、女子も前年度60校が53校に減って高倍率校は減少しましたが、2倍台の学校も10校から17校に増加し、人気校不人気校の格差がより拡大したといえます。

一方で、応募者数が定員の数に達しなかった高校は、**田柄「外国文化コース」、松が谷「外国語コース」、荒川工業「情報技術」**の3校1科2コースでした(前年度は府中工業の電気科のみ)。

新設校では、入試ぎりぎりまでの説明会が効を奏したのか、**板橋有徳**と**橘**は予備調査の志望者数以上の受検生をあつめ、それぞれ1.39倍、1.71倍の応募倍率となりました。**東久留米総合**も予備調査以上の生徒を集め2.59倍と総合学科の中でもっとも高い倍率になりました。

③ 推薦合格者の状況

- 全体の合格率は 33.5%だったが、普通科男子 31.6%、女子は 24.0%と相変わらず厳しい。

合格者数は **10,330 人**、合格率は **33.5%**と前年度の **32.8%**を若干上回りました。全体的に合格率は上昇していますが、男女別募集の普通科は男子が 31.6%（前年度 31.9）、女子 24.0%（同 23.1）と男子はむしろ厳しくなっています。

応募者数が定員数に達していなかった、**田柄の外国文化コース**は他コースからの第 2 志望者を受け入れ定員と同じ 40 人の合格者をだしました。しかし、入学手続きで 1 名辞退したため、結局一般入試の定員を 1 名増やすことになりました。

松が谷の外国語コースは 40 人の定員に 35 人が応募、全員が合格しました。それでも定員数に 5 名足りないことから、一般入試の定員を 5 名増やすことになりました。

荒川工業の情報技術科も応募者数が定員に達しませんでした。しかし、他学科からの第 2 志望者を受け入れたため定員と同数の 21 人を合格としました。

推薦入試は、中学校長の推薦書が必要だとはいえ、実際は希望すれば誰でも受検することが可能になっています。従って、都立高入試には推薦入試と一般入試の 2 回の受検機会があることとなりますが、これだけ厳しい状況が続くと、「複数回受検」がうまく機能しているとはとうていいえません。

4. 学力検査（第一次募集・分割前期募集）「2月23日（金）」

① 出願状況

- 応募倍率はほぼ前年度並みで安定。
- 差し替え率も前年度並だったが、差し替えは定員割れ校に集中した。

海外帰国学級募集分を除く一般募集人員 **28,857人** に対し、出願初日の応募者数は **40,721人**、応募倍率は1.41倍（前年度1.41倍）でこのところ1.4倍台の前半で推移しています。

願書差し替え状況を見ると、全日制で願書を取り下げた人は **2,575人** で、応募者の **6.2%**、前年度（6.1%）で差し替え率は前年度並みでした。しかし、この差し替えによって、出願二日目の段階で志望者数が定員に達しなかった44校45学科3コースが最終応募になると19校19学科0コースに大幅に減少し、前年度以上に倍率の平準化が図られました（前年度は47校50学科1コースが28校29学科0コースに）。特に、**日本橋「男子」** 0.89→1.11倍、**小岩「男子」** 0.91→1.12倍、**紅葉川「女子」** 0.87→1.04倍、**東大和「女子」** 0.88→1.08倍、**東村山「男子」** 0.76→1.24倍、同「女子」0.85→1.11倍、**飛鳥** 0.79→1.03倍、**板橋有徳** 0.81→1.12倍、**翔陽** 0.95→1.09倍、**片倉「造形美術」** 0.68→1.15倍、**松が谷「外国語」** 0.71→1.13倍、**青梅総合** 0.78→1.11倍などに差し替えが集中し倍率を大きく伸ばしました。

最終的な応募者数は、**41,368人**、最終応募倍率は前年度と同じ**1.43倍**でした。

なお、昼間定時制の一橋、浅草、荻窪、八王子拓真の4校では、従来認められていなかった全日制への志願変更が特例措置として認められることになりました。4校計で55人が願書を取下げましたが、そのほとんどは全日制への志願変更であると見込まれます。

この段階で、学力レベル別の志願状況を見ると次の表のようになり、予備調査の時と比較して学力上位層には大きな変化はないものの中堅下位層がやや挽回していることが目につきます。

男子	19年度			18年度			17年度		
	定員	志願者	倍率	定員	志願者	倍率	定員	志願者	倍率
SS58以上 (A)	2,744	5,098	1.86	2,752	5,393	1.96	2,879	5,026	1.75
SS51～57 (B)	3,110	4,614	1.48	3,086	4,340	1.41	3,222	4,277	1.33
SS45～50 (C)	3,010	3,844	1.28	2,877	3,614	1.26	2,996	3,818	1.27
SS44以下 (D)	3,003	3,854	1.28	3,116	3,985	1.28	3,245	4,174	1.29

女子	19年度			18年度			17年度		
	定員	志願者	倍率	定員	志願者	倍率	定員	志願者	倍率
SS58以上 (A)	2,451	4,333	1.77	2,448	4,327	1.77	2,538	4,221	1.66
SS51～57 (B)	2,771	4,368	1.58	2,801	4,099	1.46	2,870	3,985	1.39
SS45～50 (C)	2,822	3,839	1.36	2,829	3,701	1.31	2,885	3,944	1.37
SS44以下 (D)	2,727	3,724	1.37	2,876	4,125	1.43	2,950	4,394	1.49

② 受検状況

- 受検棄権率が下がったので、受検倍率は1.33倍で前年度より0.01ポイントアップ。
- ただし、学力上位校では私学との併願者が増加したためか棄権率が上がったところも多い。

2月23日（金）の学力検査に臨んだ全日制の受検者数は**38,401人**、受検倍率は**1.33倍**、前年度より0.01ポイントアップ、絶対評価が導入された平成15年度以降続いていた1.3倍台を確保し、高い倍率になりました。

受検棄権者数は**2,967人**で棄権率は**7.2%**と、このところ受検棄権率は毎年過去最低を更新しています。

とはいえ、日比谷「男子」35.7→37.4%、同「女子」25.8→26.6%、戸山「男子」24.2→27.1%、青山「男子」15.1→18.7%、西「女子」22.6→28.4%、小石川「女子」5.0→14.2%、両国「男子」7.3→13.6%、武蔵「男子」9.2→13.8%といった学力上位校を中心に、受検棄権率が上がったところも多く、私学とのサバイバルレースが本格化していることを伺わせます。

一般入試学科別受検状況

学科	募集人員	受検者数	倍率	前年倍率	前々年
普通科	21,106	28,959	1.37	1.36	1.32
島嶼	340	180	0.53	0.54	0.41
コース制	269	346	1.29	1.42	1.57
単位制	1,532	2,170	1.42	1.37	1.39
普通科計	23,247	31,655	1.36	1.35	1.31
商業科	1,380	1,550	1.12	1.16	1.25
ビジネス コミュニケーション	147	184	1.25	1.18	0.95
工業科	1,876	2,201	1.17	1.19	1.34
工業科 (単位制)	89	121	1.36	1.02	1.04
科学技術科	105	113	1.08	1.36	1.16
農業科	446	585	1.31	1.18	1.42
家庭科	148	178	1.20	1.34	1.46
家庭科 (単位制)	35	34	0.97	1.46	-
福祉科	18	28	1.56	1.72	-
芸術科	58	81	1.40	1.64	1.50
体育科	60	101	1.68	1.33	2.82
国際科	120	213	1.78	1.94	2.60
併合科	105	30	0.29	0.27	0.16
産業科	211	306	1.45		
専門学科計	4,798	5,725	1.19	1.19	1.31
総合学科	812	1,021	1.26	1.38	1.41
全日制計	28,857	38,401	1.33	1.32	1.32

ただし、受検棄権率が上がったといっても、もともと応募倍率が高いために受検倍率はそれほど下がらず、学力上位校は総じて前年度同様高倍率になっています。

一方で、低倍率傾向が続いていた、**田園調布**「男子」1.30倍、同「女子」1.32倍、**広尾**「男子」1.27倍、**上野**「男子」1.47倍、同「女子」1.70倍、**淵江**「女子」1.80倍などが例年になく倍率を記録しました。このことは、今年度入試の特徴のひとつといえそうです。

中堅の人気校、**目黒**「女子」、**杉並**「女子」、**石神井**「男女」、**文京**「男女」、**足立新田**「男女」、**本所**「男女」、**東**「女子」、**江戸川**「男女」、**南平**「男女」、**小平**「女子」、**東村山西**「女子」、**狛江**「女子」、**府中東**「男女」、**永山**「女子」などは高倍率が続いています。

人気の高い総合学科高校は、新設の**葛飾総合**と**東久留米総合**が1.10倍とやや低めの倍率となり、開校2年目の**青梅総合**も新設の八王子桑志の影響もあってか前年度より下がりやはり1.10倍となりました。総合学科高校は今年度で7校となり需要と供給のバランスがとれてきているように思われます。

単位制高校では、進学重視型の**新宿**と**国分寺**が相変わらず高い人気を得て高倍率になったほか、低倍率傾向にあった**墨田川**も校内改革が期待を生んだのか1.46倍と大幅に倍率を上げました。また、**美原**も地元から高く評価されて1.65倍まで上がっています。新設の**板橋有徳**は1.03倍、**忍岡**、**飛鳥**、**翔陽**は1倍に達せず定員割れとなっています。

新しいタイプの全寮制高校**大島海洋国際**は、前年度高倍率の反動からやや敬遠されて定員割れとなりました。

昼夜間定時制高校はどこも高倍率入試になっています。新設の**八王子拓真**(一般枠)は3.98倍と全都でもっとも高い倍率になったほか、**一橋**2.17倍、**浅草**1.82倍、**荻窪**1.47倍と高い人気を得ています。一方で、e-ラーニングを活用した学習支援に特色がある**砂川**は前年度高倍率の反動で1.15倍と倍率ダウンとなっています。

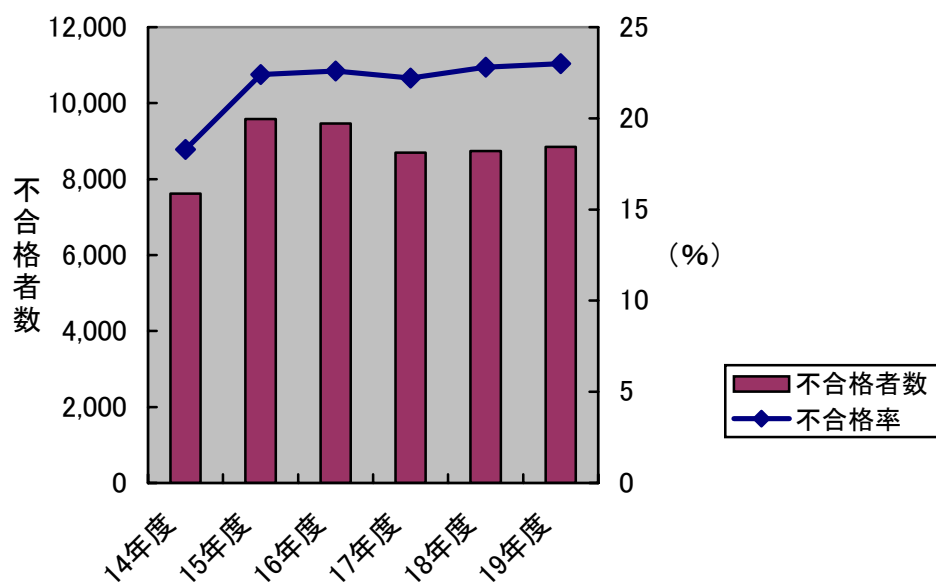
③ 合格者の状況

- 実質倍率は初めて1.3倍台に達する。
- 不合格者数は受検生の23%を占める激戦だった。
- ただし、上位校と下位校の格差が広がっている。

38,401人の受検者の内、合格者数は**29,552人**、実質競争率は**1.30倍**で初めて1.3倍台に達しました。不合格者数は受検生の**23.0%**を占める**8,849人**で不合格率が2割を超える状況が続いています。下の表にあるように、不合格者は学力偏差値58以上の上位校に集中していて、下位との格差が際立っています。男子では、予備調査と同様に上位層(A)が減り次の(B)が増加しています。女子の上位層(A)は応募の段階では前年度並でしたが、不合格も割合は減っています。これは水増し合格を多く取ったことが影響していると思われます。また、男女とも(C, D)の不合格数が少ないのが目立ち、上位層(A, B)と中堅下位層(C, D)の格差が拡大していることをうかがわせます。

入学手続き者数は**29,191人**、辞退率は**1.2%**で前年度と同じ低い数値になりました。水増し合格者数は**695人**、**2.4%**でこちらもほぼ前年度並みです。

不合格者数と不合格率の推移



	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
不合格者数	7,618	9,583	9,466	8,694	8,737	8,849人
不合格率	18.3	22.4	22.6	22.2	22.8	23.0%

普通科（単位制、エンカレッジスクール含む）学力別不合格数の比較

	男子						女子					
	19年度		18年度		17年度		19年度		18年度		17年度	
偏差値	不合格数	%	不合格数	%	不合格数	%	不合格数	%	不合格数	%	不合格数	%
58以上(A)	1,387	37.4	1,571	42.7	1,135	35.2	1,302	32.7	1,296	34.4	1,056	28.7
51～57(B)	1,043	28.1	779	21.2	631	19.6	1,207	30.3	848	22.5	747	20.3
45～50(C)	583	15.7	565	15.4	589	18.3	758	19.0	708	18.8	713	19.4
44以下(D)	700	18.9	761	20.7	868	26.9	716	18.0	918	24.4	1,162	31.6
計	3,713		3,676		3,223		3,983		3,770		3,678	

5. 10年前と比較して

以上のように、絶対評価が導入された平成15年度入試から、志望校のチャレンジ志向が定着し、学力上位校と中堅格差が拡大されてきました。下の表は、平成9年度入試（隣接する4つの学区に出願できるが、他学区からの合格者は2割以内という制限があった）と今年度の最終応募状況を比較したのですが、これを見ても応募者の上位集中傾向がはっきりと現れています。

また、学力上位校の数も10年前と比較すると大幅に減っていて、その分中堅校が増加しています。そのため一層、上位校は高倍率、中堅下位校は低倍率になりやすくなっています。

男子	9年度				19年度			
	学校数	定員	志願者	倍率	学校数	定員	志願者	倍率
SS58以上 (A)	32 (23.4)	3,870 (25.6)	6,291 (26.6)	1.63	23 (19.0)	2,744 (23.1)	5,098 (29.3)	1.86
SS51～57 (B)	32 (23.4)	3,526 (23.4)	5,362 (22.7)	1.52	29 (24.0)	3,110 (26.2)	4,614 (26.5)	1.48
SS45～50 (C)	38 (27.7)	4,253 (28.2)	6,448 (27.3)	1.52	34 (28.1)	3,010 (25.4)	3,844 (22.1)	1.28
SS44以下 (D)	35 (25.5)	3,441 (22.8)	5,533 (23.4)	1.61	35 (28.9)	3,003 (25.3)	3,854 (22.1)	1.28

女子	9年度				19年度			
	学校数	定員	志願者	倍率	学校数	定員	志願者	倍率
SS58以上 (A)	32 (23.4)	3,404 (25.6)	5,089 (25.8)	1.50	23 (19.0)	2,451 (22.8)	4,333 (26.6)	1.77
SS51～57 (B)	32 (23.4)	3,159 (23.8)	4,730 (24.0)	1.50	29 (24.0)	2,771 (25.7)	4,368 (26.9)	1.58
SS45～50 (C)	38 (27.7)	3,711 (27.9)	5,550 (28.1)	1.50	34 (28.1)	2,822 (26.2)	3,839 (23.6)	1.36
SS44以下 (D)	35 (25.5)	3,016 (22.7)	4,370 (22.1)	1.45	35 (28.9)	2,727 (25.3)	3,724 (22.9)	1.37

<注> () は割合です。

6. 学力検査（第二次募集・分割後期募集）「3月9日（金）」

① 募集人員

- 全日製の二次募集数は若干減の1,101人。
- 全体募集数に占める分割後期募集の割合は68.4%（前年度65.7%）で多くを分割募集にたよっている。

全日製の第二次募集・分割後期募集の募集人員は1,101人、そのうち分割後期募集の募集数は753人でその多くを分割募集に頼っています。

分割募集以外の欠員による二次募集実施校は、普通科では府中(2人)、福生(8人)、深川「外国語」(1人)、単位制の忍岡(13人)、飛鳥(1人)、翔陽(9人)に6校34人でした。

② 出願状況

- 差し替え前の応募倍率は1.51倍（前年度1.54倍）で下降傾向に
- 私学の併願校に流れているもよう

3月6日（火）の全日制の応募者数は**1,665人**、応募倍率は**1.51倍**、前年度の1.54倍を若干下回っています。第一次募集で学力上位層が大量に不合格になっていることから見ても多くの受検生がおさえの私学に流れたものと見込まれます。

	校数	募集 人員	応募人員(3/6)			応募 倍率
			男子	女子	計	
普通科 (コース以外)	23	803 (755)	637 (587)	641 (664)	1,278 (1,251)	1.59 (1.66)
コース制	2	39 (40)	22 (20)	39 (29)	61 (49)	1.56 (1.23)
単位制	3	23 (27)	35 (42)	39 (57)	74 (99)	3.22 (3.67)
普通科計	28	865 (822)	694 (649)	719 (750)	1,413 (1,399)	1.63 (1.70)
商業科	1	22 (78)	19 (52)	26 (56)	45 (108)	2.05 (1.38)
工業科	7	107 (157)	158 (221)	17 (18)	175 (239)	1.64 (1.52)
工業科 (単位制)	0	0 (4)	0 (6)	0 (1)	0 (7)	0.00 (1.75)
家庭科 (単位制)	[1] 0	1 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1.00 (0.00)
福祉科	[1] 0	1 (0)	1 (0)	1 (0)	2 (0)	2.00 (0.00)
体育科	1	8 (8)	13 (10)	5 (2)	18 (12)	2.25 (1.50)
国際科	1	21 (0)	7 (0)	2 (0)	9 (0)	0.43 (0.00)
併合科	[3] 0	75 (77)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0.00 (0.01)
産業科	1	1 (-)	1 (-)	1 (-)	2 (-)	2.00 (-)
専門学科計	{16} 11	236 (324)	199 (290)	53 (77)	252 (367)	1.07 (1.13)
総合学科	1	0 (22)	0 (13)	0 (25)	0 (38)	0.00 (1.73)
全日制計	[44] 39	1,101 (1,168)	893 (952)	772 (852)	1,665 (1,804)	1.51 (1.54)
定時制単位制	4	582 (289)	417 (140)	412 (161)	829 (301)	1.42 (1.04)
チャレンジス クール	5	139 (103)	252 (237)	254 (271)	506 (508)	3.64 (4.93)
デュアルシス テム	0	0 (5)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0.00 (0.20)

※[]内は延べ学校数

※()内は前年度の数

7. 来春（20年度）の都立高入試について

① 募集停止校

平成20年度入試では全日制高校の次の高校が募集を停止する予定になっています。

募集停止予定校	学科
小金井工業	機械、電子機械、電気、電子科

同校は、平成22年度に小金井地区工業（科学技術高校）として開校します。

② 開校予定校

新たに次の高校が開校する予定になっています。

新高校	設置場所
世田谷地区総合学科高校	砧工業
立川地区中高一貫6年制高校 （国際中等教育学校）	北多摩
武蔵野地区中高一貫6年制高校 （併設型）	武蔵